

本草図譜卷之七十八目錄

香水類

一種	一種	一種	一種	一種	一種
ありがき	おんたも	うがしろも	くらせん	もこ	まのけり
十一	一	一	一	四	二
一種	一種	一種	一種	一種	一種
つば	おんたも	あつたも	うがしろも	もこ	まのけり
十	九	七	六	五	三



杜松も葉生は生  
物かて枝葉  
目下杜松不同  
葉細生て丸  
り如し

一種  
よれぬた  
尻  
くさり

本草図譜  
卷之七十八





本草図譜 卷之七十八

香木類

本草図譜 卷之七十八

東都 岩崎常正 著  
男 岩崎信正  
門人 小山廣孝 校

一種	一種	一種	一種	檜栢 <small>解集</small>	一種
		サヒナ	ワケ	ワマツノワケ	トウワケ
六	七	五	十四	十三	十三
一種	一種	竹栢 <small>解集</small>	一種	一種	一種
		あき	チカクワケ	トウワケ	サマクワケ
		十六			

本草図譜 卷之七十八 目録





本草図譜 卷之二十八



本草図譜

卷之二十八

檜

解集

走きシヤク

シヤク

シヤク

切シヤク

刺シヤク

枯シヤク

結シヤク

百葉仙

事物

檜

松

圃

史

時珍の説、柏葉松身者檜也と云正字通、檜葉似細杉、幹如柏と云是之  
人家庭際不多、栽之樹皮柏の毛、葉の形枚不似、細く円く先より  
て人を刺す



本草図譜 卷之八

混し易く大和本  
草不ぞあれとハ  
海辺にありて破ふ  
れつと不義あり  
と云ふこれハ  
の通名とあれん  
一物とすなり



一種

すいじやくん

そのれ江

矮槽 事言 早言

樹直立せし地不  
蔓延は葉ハ  
むろくんハ似たり  
人家庭際不裁ハ  
又立花子用たり  
そあれの名松召い  
杜松等子ハ同くヤハ





本草図譜 卷之二十一



鳳尾松 雅

時珍の説小松葉柏身者擬也  
云此物ハ一ツ樹高く直上  
散生ハ至々樹皮薄く灰白色  
葉ハ榧ハ似て硬く先裂て  
ミミの如く突然セカク松葉ハ  
似て長く大なる物ハ天許ノ至



縦解ミミ

アヒースマヨル  
クキスホリヲ  
蘭荷旬羅

本草図譜 卷之二十一







樹葉とて小前条小  
異ふ凡唯枝條下  
葉より長



一種  
多んころりもこ

本草図譜  
卷之八





本草図譜

卷之十

五

一種

アコウセン

とろろのそもこ

あかうつか

あかうもこ 駿及 富上

葉の形楸に似て甚  
細く密にして末鋭  
あかう背は白色を  
帯ふ実の形やうやふ  
く似て大杉の葉  
の如く加茂ふ産はる物  
ハ地を這てつく



一種

うかうもこ

日光もこ

うれもこ 天台 山

野及の白根山にあり  
葉の形とろろのそもこ  
に似て 疎く又さかう木  
も小く短く背白く夏  
月枝に花を生じ赤色  
ゆいて最も美し





本草図譜

卷之七十八

七

一 種

あろもこ

枝葉とて  
前條に似て  
面より粉白  
色に微し緑色  
を帯へり



本草図譜

卷之七十八

六

うたあろもこ

枝葉の形椛に似て短く  
葉の先は乳背粉白色  
なり





本草図譜 卷之二十八

野州日光山に自生多し樹ハ松ニ似て高く直上し葉ハ松ニ似て長く  
 尖りありて密に附き又羅漢松ニ似て長し枝の梢ハ圓り三寸を分の  
 大なり纏を結ぶ形松の子ニ似たり此樹本邦自生あれども今世上敷衍  
 せるものハ元琉球より来り因て琉球と名づく大知本草ハ虎の尾ハ佳  
 木なり日向露嶋山に多し葉ハ杉ニ似て大なり短し味ハ少く松に  
 似たり葉ありきと又松に似たり葉の鋭尖なり有大葉長き數寸松に似  
 たり長大なり松類なり此樹如檜皮羅漢松可為器材其水理佳材なり為宮為捲蓋  
 可也と云

かきふ

とくかのを

大知  
本草

一種

おらんやもこ江





本草図譜

卷之十一



本草図譜

卷之十一

ノ

一種

杉ノ木ノ 葉ノ形  
さよ〜〜やちノ概

とろむ  
あそまろ  
あそ

葉の形もこの如くして赤へつたふらり甚く細く短く杉の如く  
実もまゝ、頗る杉の実に似たり樹皮落葉松に似たり日光あそまげ  
その木作す木の肌至て白し





本草図譜

卷之七十八

一種

ありき

林の木

一位のき

ありき

あつきのき

いね

カキ

西

かんて

タルマニ

ナルマニ

朱樹

唐類

土

大明一統志

朱松栢

説文

樹直生一三丈葉の形極小似こ短く葉繁く附こきり木の葉  
 春月枝の先ふき白花を同き実を結ぶ形豆小似こ小く急して南天の如  
 此樹諸品同くありと云はれ飛弾の位山の物を名産と云はれ水理正めや肌赤  
 く美く香気あり数尺の物おもふより割ハ根奪まで直ふさける以て 筍  
 作り又水毒を解さるや水鹿の蓋と云はれ又湯殿の板と云はれ又楊弓の矢と云  
 日光より著不作り 出ありきの木と云はれ賀すも出牙枝小作り出  
 凡先輩の説ハ大明一統の土産木と云はれ此樹一位の木の名ありといふ

櫛の亦に似たり木の一位と云はれ名異物あり又混まべかり



本草図譜

卷之七十八



本草図譜 卷之二十一 十

一種

つが

樛

可葉

樹直立し皮少赤く葉ハ楸ニ似て短く先尖らば長葉と短葉と交り楸  
又楸の如く整列せし四方に散生し葉ハ楸ニ似て小葉ハ六七分許あり此材種  
亦て上呂之又枝とも若小造り大樹ハハ亦理美らるあり此類水よつきて久しく  
汚れ古くへよとしかと稱れるものとか是此物と同物とも考ふるふとしかと稱するもの  
此物より葉粗見也

一種

とろつが

つが

ちんちん

総上

ちんちん

及甲

野及大澤村御殿亦あり葉ハ楸ニ似て三稜あり先尖らば杜松の如く刺利  
し香氣松の如し故小若水の説ハ古人所謂一針松なりと云々楸の形楸ニ似て短  
く小なり

つが



本草図譜 卷之二十一





本草図譜  
卷之七十八



本草図譜  
とら法が  
卷之七十八



十一









本草図譜

卷之三

一種

ワカキ

葉の形状  
むの才似  
て細く密に



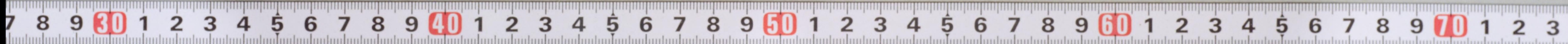
本草図譜

卷之三

一種

しつろわかき

形状前條に似て  
唯しつろわかき  
葉多くしつろわか  
きに似たり葉少し





本草図譜

卷之十七

一種

サヒナ 荷

コニヘリ ユス 旬羅

近未蘭人持渡リ  
本邦ニ裁キ葉の形  
檜柏に似テ嫩葉  
ハツまろくつふさかり如  
く老葉北ハ杉に似  
テ蘭言の 医家丸  
物を茶用ル



一種

ちや不ひま

形状のまろく  
ひまに似て  
枝葉とも小枝  
生す



本草図譜

卷之十七

十四





本草図譜

卷之十八

十三



竹栢  
解集

本草図譜

卷之十八

十五





本草図譜

卷之二十一

一種

葉の形竹の  
葉ハ似て三寸  
許リ幅一寸許  
リ四寸ニ光  
少ク尖リ面背  
とミテ深綠色  
ナリ



本草図譜

卷之二十一

形ぎ

ちろふふた

雅

眉竹

雅通

ナケヤヤホニカ

荷人

集解 小竹葉柏身者謂之竹柏と云物之類也春日若宮入幡山ナドト云其餘繁茂  
備中豆及西国又八丈島等小あり武芸近郊ナドニ新田ノ社地ニ有物ト大樹トシ葉ノ形  
鳳尾竹ニ似テ潤ク厚ク対生トシ四時凋キ花ノ形松ノ花ニ似テ集リ開ク夏ハ  
円今ニ豆ノト一此種類年々生ト花亦ニ珍説凡





本草図譜

卷之七十八

一種



葉の形尋常の物に似て細く尖り  
竹の葉の如く面北月とも深緑色の

一種

葉の形前條  
かこ前条  
ハ小ちり



本草図譜

卷之七十八

十七





本草図譜卷之七十九目錄

香木類

一 種	一 種	一 種	一 種	一 種	松
さかりまろ	まりのりまろ	まろのりまろ	ひしきのまろ	あひうろ	まろ
八	七	六	五	三	一
枯子松	一 種	一 種	一 種	一 種	一 種
解集 さんごのまろ	かたをけまろ	まやのめ	ひしきのまろ	かしまろ	まろ
八				四	二

一 種

葉の形前葉より似て細く先尖り面背共に深緑色なり

